

2017年11月6日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 柴田 裕希

インド北東州道路網連結性事業（フェーズ3）
（協力準備調査（有償））
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年10月16日（月）13:58～17:02
- ・場所：JICA 本部（1階 111会議室）
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、柴田委員、谷本委員、虎岩委員、長谷川委員
- ・議題：インド北東州道路網連結性事業（フェーズ3）（協力準備調査（有償））DFRについての助言案作成
- ・配布資料：
 - インド国北東州道路網連結性事業（協力準備調査（有償））DFR
 - スコーピング案への助言対応表
 - EIA 報告書ドラフト
 - 住民移転計画ドラフト
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第85回委員会）

- ・日時：2017年11月6日（月）14:30～16:07
- ・場所：JICA 本部（1階 113会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業（ドゥブリ橋建設）に結びつく国道 127B 号線の整備計画を FR に記述すること。
2. 土砂・採石及びその他の建設資材の調達については、自然・社会環境面での許認可の取得状況について実施段階で確認する旨、FR に記述すること。

環境配慮

3. 生態系調査については、事業終了後も継続的なモニタリング調査が必要なため、FR では D から B-に変更すること。

社会配慮

4. 本事業の被影響者の中で、中州住民は最も脆弱であると考えられるため、補償・支援に加えて、月額生活手当の支給について FR に明記すること。
5. ケア役割（家事労働、子育て、介護など）を担う必要がある女性に対する雇用機会の提供について、実施機関は、NGO 等と連携し、働く場所や時間帯に配慮する等、コントラクターに提案する旨、FR に明記すること。（
6. モニタリングの結果、子どもや高齢者を扶養している被影響者の中で、生活レベルがプロジェクト前よりも低下したことが判明した場合には、実施機関が追加支援や支援の変更を検討するよう FR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

7. 本事業で実施されたコミュニティー協議とフォーカスグループ協議のそれぞれについて、意義及び効果などを FR に記述すること。

その他

8. 舗装された複数車線の自動車交通に不慣れな近隣住民や子どもたちを対象とした交通安全啓発を実施するよう実施機関に提言すること。

以 上